

## 平成29年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人純正福祉会 青葉保育園

評価項目の達成・取組状況・これから改善したいこと

評価項目	取組状況
I 保育の計画性	社会福祉法人純正福祉会の保育理念に基づいて、保育方針や保育目標が掲げられ保育課程・指導計画を作成。平成30年4月より新保育指針の施行にあたり、現在職員も新保育指針の研修を受けその内容を学んでいる。その中で、0歳・1歳・2歳児の保育の重要性と自園の保育の特性である個々の子どもの発達や生活の連続性などがあげられていたことで、これからも更に個々の発達記録や保育日誌等から保育を振り返り、保育実践をより充実したものとしたい。
II 保育の在り方 幼児への対応	異年齢混合保育の中で、子ども同士の関わりを深め助け合って生活している。保育士は子どもたちの生活の実態を把握しながら、子どもの興味や関心が具体的に実現できるよう取り組んでいる。人の話をよく聞き、活動の中では自分の気持ちや経験したことを自分の言葉で表現できるようこれからもねらいを立てて行っていきたい。
III 保育者としての資質 や能力・良識・適性	保育経験に開きがあり経験の浅い保育士は専門的知識や技能を習得することに懸命になり、周りの状況に気付けなかったことも反省としてあげられ、感性については開きがあった。保育経験に関わらず常に知識の修得と技術の向上を前向きに目指し、誠実に子ども一人ひとりと向かい合い、関わり合う保育士集団をめざしたい。
IV 保護者への対応・守 秘義務	守秘義務については全員が遵守していた。保護者の声を随時聴きながら、園の保育方針などを丁寧に伝え、保護者とともに子どもの成長の喜びを共有していきたい。
V 地域の自然や社会と のかかわり	地域と協力しながら夏祭りや正月行事に積極的に参加、収穫体験環境教育の一環としての専門家の講話、近隣の公園でのゴミ拾いなど地域とのつながりを大切にしている。保育園に祖父母を招待する活動も行っている。また、小学校との連携で情報交換・公開授業・公開保育だけでなく保幼小の三者が共に研修会で学ぶ機会を設け、互いに理解を深めている。
VI 保育者の専門性に関 する研修・研究への 意欲・態度	同法人4園で未満児クラス、幼児クラスに分かれて法人独自に研修会を行っている。クラス課題・自己課題を事前に明確にして公開保育形式で研修会を行うことで、法人の保育理念に基づいた保育の共通理解、共通認識ができ職員同士互いに研鑽することができている。
VII 保育の在り方、3歳 未満児への対応	子どもの生活実態を踏まえて、一人一人の子どもの発育や発達に基づき、クラス的环境や課題捉えて、発達過程に留意しながら子どもに寄り添い適切な援助をこれからも行う。
VIII 地域における子育て 支援	地域の子どもやその保護者に月2回の公開保育を通して、保育園での子どもたちの育ちや保育情報を公開して、その中で育児相談も行っている。